

(別紙)

成果の説明書

(氏名)石井清輝	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>①これまでの調査活動を踏まえ、「寺院祭礼(手作り縁日)の事例にみる地域行事と『減災』の交点—現代大都市におけるソーシャル・キャピタル形成の実践知」(『年報社会学論集』第29号)を発表した。なお本論文は、筆者が代表者であるJSPS科研費(若手研究B)の成果報告でもある。</p> <p>②東京都台東区の谷中地区、文京区の根津、千駄木地区において、所属ゼミ学生と観光客の動向やまちづくりに関する調査実習を実施した。</p> <p>③群馬県桐生市の重要伝統的建造物群保存地区を中心に、所属ゼミ学生と商店主、市職員などに対するインタビュー調査、祭礼調査を実施し、あわせて地域振興プロジェクトを実施した。なお、これら研究成果を、他大学との合同発表会(2017年2月18日・有鄰館)にて発表した(関連記事『桐生タイムス18/2/16』等)。</p> <p>④上記②、③の学生による調査活動も踏まえて、ゼミナール所属学生の報告書の原稿作成の指導を進めた。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>拙稿の「植民地時代の遺構をめぐる価値の生成と『日本』の位相—台湾における日本式木造家屋群の保存活動を事例として」(所澤潤・林初梅編『台湾のなかの日本記憶—戦後の「再会」による新たなイメージの構築』三元社、所収)が、2017年3月に、「日治時期歴史建築的価値生成與『日本』的定位—以臺灣的日式木造住宅群的保存活動為例」(『戦後台湾的日本記憶—重返再現戦後的時空』允晨文化、所収)として、台湾において、翻訳、出版された。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>①台湾に関しては、日本統治期建築物の保存・活用に関する実証的研究を進めていく予定である。</p> <p>②群馬県桐生市では、歴史的環境の保存・活用に関する研究を継続し、さらに住民意識調査を実施する予定である。</p>	